

バンドマンを支える職業

——「裏方」はいかにして形成されるのか

本論文は、バンドマンを支える職業に就くキャリア形成や業界参入の動機から、「裏方」がどのように社会的に形成され維持されるのかを問いとした。

本論文を執筆する経緯は、筆者が表舞台に立つ人々よりも、目に触れられる機会も少なく名声にも直結するとも限らない「裏方」という職業に興味を持っていたことや、「裏方」として働いてみたいと思ったこともあるためである。また、「裏方」に着目する研究が少ないことから、今回の本論文の執筆にあたった。

問いを明らかにするために、バンドマンと深く関わりのある職業についている人々に注目する。深く関わりのある職業については、バンドマンの「裏方」と考えられる職業とする。これまでの自身のアーティストのライブ鑑賞やサークルでのライブ活動を通して、バンドマンの活動に関わる全ての人々を、バンドマンを支える「裏方」と定義できる。具体的には練習スタジオや楽器店で働く人々、ライブハウスや専門性の高いものを扱っている人々などである。

「裏方」という定義を踏まえ、今回4名の方を対象とした。調査方法はインタビュー調査を行った。音楽業界を支えるという職業に就くまでの過程や考えていたこと、感じていたことをインタビューで聞き取りした。音楽業界で生きていくことを決心した理由や、なぜプレイヤーではなくバンドマンを支えるという形で働こうと思った理由などを尋ね、本論文の問いを考察していった。

インタビューの分析を通して、音楽業界でバンドマンを支える「裏方」として働くことは、プレイヤーになれない・難しいと感じたことからではないとわかった。4人がそれぞれ就いている「裏方」の職種に就きたいという気持ちが大前提にあり、バンドマンを支えたいという気持ちや考えは、後からついてくるものであった。4人に共通しているのは、好きなことをやりたい、目指したいという意思が強く、その職種にとっても強いやりがいを感じている。「裏方」に対する自分なりの考えや理解を持ち合わせており、重要視される仕事の給料や安定性を抑える程の職種への熱量が伝わった。なにより、やりたいことを第一に考えていることが、この業界でキャリアを形成し維持していくことに必要な想いだと感じた。自分から行動を起こし、プラス思考な考えを持ち、好きなことをして働く・活動する生き様がそこにはあった。

バンドマンなどの表舞台に立つ人々が輝くには、「裏方」の存在が無ければ輝くものも輝くことができない。「裏方」は必要不可欠で重要な職業である。